

# 「子どもたちに誇れる農業を」



有元 司 (40歳)  
(宇和島市)

Uターン

## 1 就農の動機・理由

実家が元々かんきつ農業をしており、幼いころから農業は身近な存在だった。社会人になり、JAに勤務し、農家の方と関わる中でその気持ちが強くなっていった。また、年々農家数が減少している現状を目の当たりにし、自ら農地を開拓し農業を営みたいと考えるようになった。

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人)	男1人(本人) パート3人
経営耕地	樹園地 140a	樹園地 250a	樹園地 315a
経営内容	南柑20号 101a ハイワード 45a	極早生温州 13a 南柑20号 120a 甘平 10a ハイワード 45a その他 62a	極早生温州 86a 南柑20号 120a 甘平 10a ハイワード 45a その他 54a

### ○農業用施設

農業用倉庫 1棟  
果樹棚(キウイ) 45a

### ○主要農業機械

スプリンクラー 92a  
モノレール 1台  
軽トラック 1台

動噴 1台  
選果機 1台  
スピードスプレーヤー 1台  
刈り払い機 1台  
チェーンソー 1台  
キウイ花粉取機 一式

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県宇和島市  
職歴 JA えひめ南  
就農年月 令和3年4月

### (2) 就農時の思い

実家がかんきつと水稻を栽培しており、父親が高齢となってきたため、いずれは自分が実家の農業を継ごうと考えていた。

就農した年に1人目の子どもが生まれ、将来、農業を継ぎたいと言ってくれた時に「稼げる農業を継がせてあげたい」と考えるようになった。

就農当時はまとまった収入も無く、キウイフルーツの果樹棚への投資等経費がかかるため、家族を養っていけるのか、不安な気持ちもあった。

## 4 就農時の取り組み

### (1) 技術の習得

農薬や肥料の知識は、JA勤務時の経験が生きていると感じる。かんきつの栽培技術は父から学び、キウイフルーツは、地域のベテラン農家から学んだ。

## (2) 資金の準備

基本的には自己資金で対応したが、新規就農総合支援事業（経営開始資金）を受給している。

また、設備投資を行っており、キウイフルーツの棚は JA の補助事業を活用し、リースで設置。スピードスプレーヤーは県の単独事業を活用した。

日本政策金融公庫で運転資金の借入も行っている。

## (3) 農地・住宅の確保

実家がかんきつと水稻を栽培しており、かんきつ経営を一部継承した。

その他、地域の耕作放棄地を開拓し、農地の確保を図った。住宅は、就農前と変わっていない。

## (4) その他苦労したこと

耕作放棄地の再生を行った初年度に最も苦労した。雑木の伐採や、抜根、整地等、休みなく作業を行った結果、1ha 程度の園地を開拓することに成功した。

## 5 農業経営の特徴

労力が基本的に1人のため、いかに省力化し、効率よく栽培できるかを考えて作業している。山頂の耕作放棄地を開拓することにより、平坦な園地を確保した他、植栽間隔を広くすることでスピードスプレーヤーを活用して防除が可能な園地を実現した。

また、先々を見越して、計画を立てて実行に移すことを心掛けている。メリハリをつけて作業に取り組むことで、プライベートの時間を作っている。

## 6 これからの夢

現在は栽培園地の半分程度が苗木で、

今後の生育と、成木になり収穫できることを楽しみにしている。また、省力化、効率化を図り、「稼げる農業」を実現させたい。

## 7 成功したキーポイント

経営を開始したばかりなので、まだまだ成長途中だと考えているが、父親や地域農家、行政など、周りの助けがあったから今の自分があると考えている。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

農業の実際は「しんどい」ですが、「可能性は無限」です。やればやるだけ、結果として自分に返ってくるので夢があると考えています。だからこそ、将来を見据えて今を頑張ることが出来ます。

### ○ 指導機関からのひとこと

有元さんは、熱意とバイタリティにあふれており、今後も地域の期待の若手農業者として活躍されることを期待しています。

### 執筆機関

南予地方局地域農業育成室  
電話番号 0895-28-6117



倉庫でかんきつの選別作業